

日本農芸化学会 2025年度大会

北の大地は熱い議論の場

3月4日から8日まで 札幌で開催

(公社)日本農芸化学会(西山真会長)は3月4日〜8日の5日間、2025年度札幌大会を札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)などで開催する。「生命・食糧・環境」の3つのキーワードに代表されるバイオサイエンス・バイオテクノロジーを中心に多彩な領域からなる「農芸化学」分野の基礎から応用まで幅広い最新の研究成果が発表される。今回の特集では、大会に向けた思いや期待などを大会実行委員長の園山慶教授(北海道大学大学院農学研究院教授)に聞いた。

5面では各社から発表されている関連製品を紹介する。

メインはポスターセッション

一般企業の人と同じ空間に

「プログラムの特徴を教えてください」

「昨年の日本農芸化学会大会は100周年ということで、記念の大会に盛り込んで盛大に、思い出深い大会を開催されました。今年からは100年に向けての最初の大会になりますので、その記念になる大会にしたいと考えています。」

「プログラムの最大の特徴といえば、参加者としてはメインの一般演壇はポスターセッションになっています。一般演壇は1800題ほど集まっています。」

「コロナ禍で通常の大会が開催できず、昨年からは対面で開催できるようになり、記念の大会も無事今年度は通常開催に戻ったというところでしょうか。」

「何の役に立つのか」産業化を意識した学会

「ご自身にとって日本農芸化学会の大会有什么なものでしょうか？」

「私は北大の出身で、農学部の農芸化学科を卒業しました。当時は1980年の入学で、1年定年で大学院に進学する直前の3月に日本農芸化学会の大に行きました。入会がきっかけで、指導教員の先生に、研究するのなら学会発表

腸内細菌と人間の関係解明へ

「先生が農芸化学分野に進まれたきっかけは？」

「さきほど申し上げましたサイクル活動は、フィールドワークが中心で、いわゆる観察研究でした。そういったことをやる中で、実験研究してみたいと思っ

自分とは違う領域に

「学生や若手研究者をはじめとした参加者への期待をお聞かせください」

「現在の農芸化学はそれぞれの専門が先鋭化して細分化されています。悪く言えばいわゆる専門化してしまっています。僕は若い人には、そういったことを乗り越えて広く浅くいろいろな興味をもって学んでほしいと思っています。ポスターセッションはそこに行かなくて、様々な研究を知り、コアタイムにはそこに行き、演者に質問もできます。」



大会実行委員長

園山慶教授に聞く

「略歴」1980年に北海道大学農学研究院農芸化学専攻修士課程を修了し、ライオン研究員を経て92年に同博士課程中退。翌年から北海道大学農学部助手

「初めに発表した時は偉い先生の前になんか怖い質問が来るのかと恐ろしかったです。今より怖い先生が多かったですね。」

「私が入った研究室は食品栄養学研究室というところで動物実験をもとに栄養学を研究する研究室でした。指導教官はもつとくになつた。」

「同大学助教授、准教授を経て2018年から北海道大学大学院農学研究院准教授を経て2022年、野食機能化学研究室教授(現職)。」

「3月の初旬の北海道は北海道外の方にとっては真冬と言ってもいい季節です。寒さと雪道にご注意いただきたいです。天候が持つてくれることを祈っています。皆さんに楽しんでいただけたら幸いです。」

「どのよう大会になることを期待していますか？」

「ポスターセッションが主なスタイルなので議論を深めてほしいと考えています。会期は例年より1日長いスケジュールで十分ディスカッションする時間があります。個人的なところですが、一昨年に同じ会場で日本栄養・食糧学会の大会を開催した際には、開催までは心配したがポスターセッションが非常に盛況だったと記憶しています。」

「単に知ることができるようになりました。そういう環境がそろってきて研究できるようなになりました。今の研究をやっています。」

「腸内細菌と我々の関係を分子レベルで明らかにしたいということ。今の研究をやっています。」

「消化できない食物繊維が腸まで来て、それを利用できる細菌が利用して、ヒトの生体は、その細菌の影響を受けるという関係性に興味を持ち、先生に食物繊維と腸内細菌の研究をしたいと申し上げました。でもその当時の腸内細菌研究は主に培養法で、ほとんどの腸内細菌は嫌気性菌で培養が非常に困難で研究は難しかったと言われました。」

「私が入った研究室は食品栄養学研究室というところで動物実験をもとに栄養学を研究する研究室でした。指導教官はもつとくになつた。」

「私が入った研究室は食品栄養学研究室というところで動物実験をもとに栄養学を研究する研究室でした。指導教官はもつとくになつた。」

「私が入った研究室は食品栄養学研究室というところで動物実験をもとに栄養学を研究する研究室でした。指導教官はもつとくになつた。」

「私が入った研究室は食品栄養学研究室というところで動物実験をもとに栄養学を研究する研究室でした。指導教官はもつとくになつた。」

「私が入った研究室は食品栄養学研究室というところで動物実験をもとに栄養学を研究する研究室でした。指導教官はもつとくになつた。」

「私が入った研究室は食品栄養学研究室というところで動物実験をもとに栄養学を研究する研究室でした。指導教官はもつとくになつた。」

「私が入った研究室は食品栄養学研究室というところで動物実験をもとに栄養学を研究する研究室でした。指導教官はもつとくになつた。」

「私が入った研究室は食品栄養学研究室というところで動物実験をもとに栄養学を研究する研究室でした。指導教官はもつとくになつた。」

- MSへの移動・接続
- ウォークインドラフトへの移動
- 実験室のレイアウト変更も容易に

HPLC SMART Rack

HPLC SMART Rack についての詳しい情報は、右のQRコードからご覧ください

実験室のスペースを有効活用

実験室のスペースや実験計画に応じて、HPLCシステムを設置・移動できる専用ラックです。実験台の設置が困難な幅でもHPLCシステムを設置でき、実験室の生産性と安全性が向上します。

■ 実験室のレイアウトがより自由に

実験室に60cm四方のスペースがあれば、HPLCシステムを設置できます。キャスター付で、システムごと使いたい場所へ移動できます。

実験室 A

■ よく使われるシステムの幅に合わせた2サイズをご用意

幅は60cmまたは90cmの2種類。日本分光製 HPLC EXTREMA、EXTREMA 4500 Model の他、旧製品(LC-2000 シリーズなど)もご利用いただけます。

実験室 B

光と技術で未来を見つめる

日本分光

日本分光株式会社
〒192-8537 東京都八王子市石川町2967-5
TEL 042(646)4111 内
FAX 042(646)4120

北海道S-C 011(74)5285 神奈川県S-C 045(989)1711
北日本S-C 022(748)1040 名古屋S-C 052(452)2671
筑波S-C 029(886)7177 大阪S-C 06(631)219173
東京S-C 03(3294)0341 広島S-C 082(238)4011
西東京S-C 042(646)7001 九州S-C 092(568)1931

ISO 9001 ISO 14001

JASCO GMS/EMAS
JASCO 2000 JASCO 2010 JASCO 2020 JASCO 2030

日本分光の最新情報はこちらから
<https://www.jasco.co.jp>

日本分光HP

産業・応用・製品

NEDO グリーンイノベーション基金事業

浮体式洋上風力の共通基盤確立へ 国際標準実現などに向けて技術開発
NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)は、グリーンイノベーション基金事業の一環として、洋上風力発電の低コスト化プロジェクトを推進している...

マネロン対策高度化へ 日立とデジタルアセット事業者が連携
日立製作所とデジタルアセット事業者が連携し、デジタルアセットの管理とセキュリティ対策を強化する...

2~4月に実証実験
日立製作所は、デジタルアセットの管理とセキュリティ対策を強化する実証実験を実施する...

光デバイス需要増に対応 生産試験時間を大幅短縮
横河計測が光スペクトラムアナライザ新製品を開発し、生産試験時間を大幅に短縮する...

島津、豪州の販売会社2社統合 4月1日に新会社
島津製作所は、オーストラリアの販売会社2社を統合し、4月1日に新会社を設立する...

IT・情報通信動静
総務省は、昨年7月に取りまとめられた「5G普及のためのインフラ整備推進ワーキンググループ」の報告書に基づき、携帯電話事業者から5Gインフラの整備状況について報告を受け、その結果を新たな目標に基づく5G整備状況として2月12日に公表した...

日本農芸化学会大会 関連製品

富士フイルム 和光純薬 生化学検査試薬のラインアップ拡大

イヌ・ネコの検体も測定可能
富士フイルム和光純薬(大阪市中央区道修町3-1-2)は、生化学検査試薬「ラボアッセイ」シリーズの新製品を相次いで上市し、ラインアップの拡大に注力している...



日本分光 HPLCシステム専用ラック

スペースを有効利用 キャスター付きで設置容易
日本分光は、HPLCシステム専用ラックを開発し、スペースを有効に活用できることをアピールしている...



より厳格に保存物管理 他社製品との接続も可能

PHCクラウド型ラボ管理ソリューション
PHCバイオメディカ事業部(東京都港区西新橋3-7-1)は、製薬企業および研究施設、医療機関向けに、超低温フリーザーやCO2インキュベーターなどの保存・培養機器の稼働状態を一元管理するクラウド型ラボ管理ソリューション「LabSVIFT」を開発した...



FUJIFILM Value from Innovation

生化学検査キット(試験研究用) ラボアッセイ™ シリーズ

- アンモニア
アルカリフォスファターゼ
ALT (GPT)
AST (GOT)
オートタキシン (ATX)
グルコース
クレアチニン
コレステロール
HDL-コレステロール
LDL-コレステロール
トリグリセライド
遊離脂肪酸 (NEFA)
りん脂質



富士フイルム 和光純薬株式会社
本社 〒540-8605 大阪市中央区道修町3丁目1番2号
東京本店 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2丁目4番1号